

## 2019年第1回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日 時 : 2019年5月23日(木) 14:00~16:00

場 所 : おおぶ文化交流の杜 文化サポートー室

出席者 : 委員 7名／大府市（文化振興課田中課長・山本係長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長野村・文化部門マネージャー森・エリアマネージャー江口 図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長上野・図書館部門マネージャー小倉・エリアマネージャー峯岸）

### 発 言 者

### 議 事 錄

事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

2019年度第1回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

文化・図書館部門共に、サポートーズ代表委員が変更になりましたので、紹介させていただきます。（事務局より紹介）

司 会 アローブも開館6年目になりました。課題を協力して乗り越え順調に運営していると聞いております。

本日は文化部門・図書館部門の上半期報告と、次期5年間の第2期おおぶ文化交流の杜中期事業計画の、文化交流部門の変更点を議論して頂きたいと思っております。

忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り、委員過半数の出席の為会議成立となります。

#### ～2018年度下半期文化交流部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などあれば伺いたい。

B 委 員 駐車場の問題がまた発生しているようだが、現状はどのような状況か。

J C D 竹澤恭子さんのコンサートの時だったと思うが、図書館でも大きな事業があり駐車場が混亂した。事業が重なってしまったのは、図書館とのコミュニケーション不足が大きな原因であり反省点である。カーマなど近隣に協力を得ながら運営しているつもりであるが、物理的に難しい部分もあり、新たにヤマハ音楽教室との連携で、40台程度新規で臨時駐車場を確保するなど、努力は続けている。

B 委 員 開館当時から問題になっているので、解消に向けて努力して欲しい。

D 委 員 はぐくみ隊に参加しているのでサポートーズの育成について話がしたい。文化部門のサポートーは図書館のサポートーとは設立過程や構造が違う。一般市民と専門家が連携して活動する場面もあるので、難しい問題も多い。今後社会包摂制度やファンディングなども身に付けるように、サポートーを育成する必要がある。現在、この分野の業務に、専任スタッフ1名に加えて、マネージャーも関わっているようだが、もっと支援をお願いしたい。

J C D 中期計画にも関わってくるが、組織としてもバックアップ体制を整えたいという思いはある。スタッフの人数に限りがあるので、今後も館長・マネージャーが積極的に関わることで、対応していくたいと思っている。

D 委 員 引き続きよろしくお願いしたい。自身がイベントを実施した際には、文化部門の担当スタッフからサポートしてもらい、非常に有難かった。この場を借りてお礼を申し上げる。

C 委員 文化協会から参加しているが愛三文化会館の現状と比べると、アローブは非常に活発に活動していると感じている。愛三文化会館を活性化するにはどうしたら良いか、といつも考えている。サポーターを募集してもなかなか集まらないと聞いている。サポーターの活動については無償の問題が難しい。昔は仲間作りとして楽しむ部分もあったが、時代も変わりボランティアをすることで、何か得るものがないと難しいのではないか。そのような状況の中、アローブで多くのイベントが実施できているのはすごいことだと思う。今後は愛三文化会館との共同も考えて欲しい。アローブは良い意味でこぢんまりとしている点が、功を奏しているのかもしれない。下半期の事業は竹澤恭子さんのコンサートを実際に鑑賞した。竹澤さんももちろん素晴らしいが、宮田大さんの演奏も素晴らしい。そういう演奏家を呼べるのは本当に素晴らしいと思う。愛三文化会館との連携についてはどのような状況なのか。

J C D イベントがかぶらないなど、スケジューリングについて情報共有はしているが、サポーター養成などの具体的な連携については実績がない。

D 委員 アローブが愛三文化会館に出張していくのも良いのではないか。

大府市 それはぜひお願いしたい。二館の連携は大府市が繋いでいかなくてはいけないが、指定管理者の得意・不得意な分野があるので、難しいところもある。最近になってようやく二館が課題を共有できるようになってきているとも感じているので、今後は意識していきたい。本日は、大きな視点で意見を聞けて有り難い。

#### ～2018年度下半期図書館部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などあれば伺いたい。

F 委員 セレトナフェスタ 2018について、壁面の展示が工夫されていて子どもの反応がとても良かったが、おはなし会（読み聞かせ）についてアドバイスさせて欲しい。図書館外で行う場合、周りがガヤガヤしていたり、事前に参加対象者が分からぬことが多いが、成功する為には8割が本選びだと言われている。いろいろな本を準備して、対象や状況に合わせて絵本の入れ替えをすると、今よりもステップアップができると思う。今後に向けて頑張って欲しい。「ソ・ナ・エ・ル～地震から学ぶまちの防災～」の参加状況を見ると、若い世代（ティーンエイジャー）にアプローチすることの難しさを実感する。文化部門も苦労しているようだが、図書館でも同様である。対象を考えて、その世代に届くような講座・講演などを開催することが必要だろう。良い例として、有栖川有栖氏の講演会が挙げられる。作品がアニメになり本の表紙もアニメ風になったこともあり、若い女性の参加者が非常に多くこれまでとは雰囲気も違っていた。図書館のイベントで作家の話が聞けるのは本当に素晴らしい。絵本作家も良いが、大人向けのものはとても嬉しい。残念だったのは、推理作家がアローブに来館したのだから、図書館内にも本格推理小説のコーナーを作るべきだった。それがあれば貸出にも繋がったと思う。

D 委員 「はじめての自分史」を講師として担当させてもらった。サポーターではなく仕事としてアローブとの付き合いができた。図書館の担当スタッフが、事前に自分史協議会のイベントに足を運んでくれたり、電子書籍化への提案などもしてくれたりと、本当にすばらしい

対応をしてくれたことに感謝している。こうした日頃のスタッフの働きはKPIの数値に表れないものであるが、そういう働きがあって支えられていることを知って欲しい。またPFIであるがゆえに、積み上げてきたものの継承が難しい。スタッフが長く働くように労務管理もお願いしたい。

- T R C 講座で作成した電子書籍はどなたでもHPから閲覧できるのでよかつたら見て欲しい。  
D 委員 講座後もライフワークとして続いている方もいると聞くと、講師としても非常に嬉しい。  
自分自身の活動はアローブで作ってもらっている部分もあるので、有り難いと思っている。

### ～第2期おおぶ文化交流の杜中期事業計画「あしたの杜」文化部門変更点 及び組織としてのバックアップ方法について文化部門より説明～

- 司 会 主な変更点としては、「杜のあそび場」「シビックプロジェクト」だが、先ほど議論があつた愛三文化会館との連携についても記載があった。書いてある文言だけでなく本当の意味で繋がりが生まれてくると良いと思うが、ご意見ご質問などあれば伺いたい。
- D 委員 すばらしい内容だと思うので、実現に向けてよろしくお願ひしたい。
- 司 会 組織としてのバックアップだが、下半期はマネージャーの参加があった点は評価できるが、実務担当者の負担はまだまだ大きい。「市民が主役」というのを立ち上げの時から謳ってはいるが、それを実現しようと思うと、図書館部門に対して文化部門はまだまだ頑張りが必要だと感じている。その底上げを図るため、「杜のあそび場」というのは、アートマネジメントは関係ないと思っている市民に向けて、アローブをフィールド（あそび場）にしてアローブかくれんぼでも良いし、周辺を含めたウォークラリーでも良いし、何か関わる人を増やしたいというのが、そもそもの発想にある。「シビックプロジェクト」は本当に協働していくこうと思うと色々な問題があり、協働しているつもりの市民を裏で支えるスタッフの負担は非常に大きい。現実的に資金の話だったり、チケットを売る重荷だったり、お客様としての市民サポーターではないという考え方ができるように2つの新しいプランを考えていただいた。
- C 委員 実現できれば本当に素晴らしい。組織などのバックアップ体制の別紙追記も評価できる。愛三文化会館では、関わってくれる人々の入会費も非常に難しい問題となっている。事業の時だけ短期でもよいから、アートマネジメントの専門家を置く必要があると思っている。現状、会館独自事業は出来ず、市からの予算内で小さな事しか出来なくなっている。
- 司 会 館長が言われたように、入会費や人員に限りがある中で、どうやって運営していくかということが問われているので、常勤でなくてもイベント時にサポートする体制も必要なかもしだれない。
- C 委員 気持ちだけでは運営できないので、予算等の裏付けも考える必要があるだろう。
- B 委員 このような体制に対してどうやって対応していくのか、という議論は開館前からあった。これまでの5年間の経験を基に今回組織としての考え方が出てきたと思う。
- 司 会 補足資料を準備していただけて良かった。

- G 委員 図書館サポーターとして活動しているだけでなく、文化部門でもギャラリーやスタジオを使って子育て支援の活動を行っている。その中で感じることは、アローブニュースが面白くないということだ。他館には魅力的な広報誌があり、それを見て足を運ぶことが多い。もう少し楽しくてワクワクするような内容にアプローチしてもらえると嬉しい。刈谷市 アイリスにはメルマガもあり、タイムリーな情報が確認出来る点が良いと思う。アローブはHPやブログも更新が頻繁ではない。学習室が満員になったなどの情報も有り難いが、それ以外の情報も貪欲に発信をお願いしたい。勝手な意見ではあるが、ぜひ検討して欲しい。他館のものにはストーリー性がある。なぜアローブでこの公演を実施しようと思ったのかといったような背景など、企画者の意図が伝わってくると参加してみたいと思うが、告知だけの散漫な情報は伝わるものがない。
- J C D アローブスケッチなどを応募したり出来る範囲で工夫もしてきたが、このままでは良くないということは認識していた。5周年ということもあり、8月1日創刊を目指して丁度準備を進めている。今後に期待して欲しい。
- 司 会 市民レポーターを募集して、館ができないことを市民やサポーターに記事を書いてもらうのも良いと思うので、頑張ってもらいたい。
- E 委員 シニア世代と仕事をすることも多いが、最近の流れから運転免許を返納している方が多い。ふれあいバスについては発着所が変わったり、アローブ発の最終時間も早い。立体駐車場も狭く、シニア世代には使いにくいという声も耳に入っているので、市にも検討していただきたい。昨年から愛知県芸術文化センターで、地域と芸術を結ぶファシリテーター講座に参加している。その経験の中で感じることは、文化部門も図書館部門のように定期的なワークショップがあると若い世代の人が集まると思うが、どうか。大府の若者に響くかどうかは未知数であるが、ダンスやヒップホップ、オタ芸でも良いので、定期的にワークショップがあったら若い力が集まるのではないかと思う。サポートーズについても、イベントのゲネプロやバックヤードを見学する機会を設けるなど、イベントの成り立ちを見せることが育成に繋がると思う。シニア層も元気な方が多いので、もっとサポーターに参加してもらえるように仕組みを作っていただけるとありがたい。
- 司 会 若者のワークショップや、バックヤードの見学なども、愛三文化会館と同時に開催するなど連携するのも面白い。良い提案だと思う。

#### ～2019年運営計画 文化部門・図書館部門より説明及び総括～

- 司 会 ご意見ご質問があれば伺いたい。
- F 委員 文化部門のボランティアについては議論になるが、図書館ボランティアも議論が必要だ。30年のキャリアがある方もいて高齢化が進んでいる。後継者の問題は気になっている。このまま行くと、あと5年たった時に、週1回のおはなし会がボランティアで存続していくのか心配だ。英文多読など図書館としてもボランティアを育ててはいるが、今後新たにボランティアを育てたり、新規でボランティアを募集する手助けをすることを、考えていかなくてはならないと思う。文化部門と同じように図書館としても市民とどう関わっていくのか、次の5年計画をどうするのか考える時期だと思う。

T R C 図書館のスタッフは 28 名いる。その人数で全国 1 位の貸出数 1,477,000 冊の本を管理している。5 月から原田先生に協力をお願いし、傷んだ図書の修理サポートがスタートした。もっと協力者が増えればスタッフの負荷も減り、サポーターの養成やイベントに時間が割けるようになると思う。配架・返却・修理など実務的なことをお願いできるボランティアが欲しいと思っている。

司 会 その他はどうか。

T R C 下半期の報告書の中でも 4~5 のイベントでサポーターの力を借りているので、今でも十分支援してもらっているが、大府市内にも原田先生のような製本のプロの方がいるので、そういった方が図書館に関わり先生となって、製本マイスターといったようなグループが出来てくれると嬉しい。図書の返却が自動化されたことは有益だが、本の傷みが激しいという弊害もある。

F 委 員 そういうった養成講座ができると良い。ボランティアに興味はあるが、入り口が分からないという意見もある。窓口を分かりやすくする為にワークショップ等を検討して欲しい。

T R C 先日ご夫妻で配架サポーターがやりたいという方が来館された。他館で経験があるとのことだった。そういうった思いを持った方々も存在していることは確かである。やりがいを持って続けて貰う為に、サポーター同士横の繋がりが出来れば良いと思っている。年に 2 回程度お茶を飲みながら、座談会なども実施したいと考えている。

D 委 員 本の配架や修理は個人のサポーターであるが、サポーターグループもたくさん存在している。他グループの活動が分からないという意見も多い。グループの発表会などを企画し、図書館の事業として組み入れてもらえると嬉しい。

T R C 以前勤めていた館では、年に 2 回サポーター発表会を開催していた。そこからグループ同士のコラボも生まれていた。今後アローブでも実施を検討したい。

司 会 図書館部門だけでなく文化部門も一緒にできると良いと思う。

B 委 員 サポーター交流会は良いアイデアだ。その際には、サポーターをサポートしている館側のスタッフも参加して、ご意見を聞かせて欲しい。

司 会 職員も一緒に参加できる体制にすると良い。全体を通してご意見をお願いしたい。

大 府 市 過去 5 年の事業のまとめを行っている。行政ではできないような講座やイベントを多く実施していただき感謝している。大府市内のトレンドを敏感に事業化してもらっていると感じている。ボランティアに関しては、市のロビーコンサートでもフロントスタッフの登録制度を持っているが、養成講座等も行っていないため、ボランティアの取り合いでなく、アローブや愛三文化会館とも連携しながらやっていけると、市民の裾野も広がっていくと思う。

文化振興指針の作成を進めているが、行政は市民の幸せの為、社会包摶という本来の役割はしっかりと理解した上で、あいまいだったり自由だったりすることは敢えて残し、活動を止めてしまうようなことがないようにしたいと思っている。行政の内部でも理解を深めていけるよう努力するので、一層連携をお願いしたい。

司 会 本日は、大きく 3 つの視点を得ることができた。1 点目はアローブと愛三文化会館の 2 館の連携体制強化、2 点目は文化部門・図書館部門ともに市民参加と協働の仕組みづくり。

入り口としての養成講座、ワークショップ、交流会などのアイデアをはじめ、人材とおカネなどのバックアップ体制も含めて提案された。3点目は広報とターゲッティング。ワクワク感とストーリー性のある広報戦略、シニアやティーンなど各世代に刺さる企画を、と。いずれにしても重要なのは中期事業計画に書いてあること、つまり「紙」を「現実」にする、ということだと思います。皆様本日は有意義な対話の時間ありがとうございました。

J C D 次回運営協議会、開催予定は2019年11月21日（木）の予定。

今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたと考えている。

司 会 以上で協議事項はすべて終了した。閉会。